

豚のウイルス性下痢にご注意を！

豚の下痢は肺炎と並んで、肥育豚の死亡原因の多くを占めています。晩秋～冬にかけての、気温が下がる時期は寒冷ストレスが大きくなるため、発症のリスクが増えます。伝染性の下痢の原因には細菌によるもの（大腸菌症やサルモネラ症）とウイルスによるものがありますが、今回は主なウイルス性下痢について再確認をして、寒い季節に備えましょう。

主なウイルス性下痢

主なウイルス性の下痢は、伝染性胃腸炎（TGE）、豚流行性下痢症（PED）、豚ロタウイルス病等があります。これらは症状が似ており、感染・伝播が早く、農場内に発生するとウイルスが常在化し、毎年のように発生することがあります。下の表に3疾病の特徴をまとめてみました。

	伝染性胃腸炎（TGE） （届出伝染病）	豚流行性下痢（PED） （届出伝染病）	豚ロタウイルス病
感染・発病する豚	全ての日齢の豚 （哺乳子豚～繁殖豚）		子豚（主に1～7週齢）
潜伏期	哺乳豚：12～24時間 肥育豚：2～4日間	哺乳豚：24～36時間 肥育豚：3～5日	哺乳豚、肥育豚：2～5日間
症状	哺乳子豚：激しい水様性下痢、嘔吐。7日齢以下の子豚はほぼ100%死亡 育成豚・肥育豚：突発的な水様下痢。5～7日間で治癒する。 母豚：発症は稀、一過性の軟便または下痢。泌乳低下	哺乳子豚：水様性の下痢（黄白色）、嘔吐。10日齢以下の豚は致死率高い（50～100%）。 育成豚・肥育豚：水様性下痢、食欲減退。死亡することは稀。 母豚：食欲減退、発熱、泌乳低下	子豚：黄～灰白色の凝固乳を含む水様性下痢 発病率、致死率は低い（15%程度）。混合感染で悪化。
対策	母豚へのワクチン	母豚へのワクチン	二次感染の防止
	TGE / PED混合ワクチンあり 導入豚の隔離、観察、豚舎、豚房の洗浄消毒等 飼養衛生管理の徹底		

日常から豚の健康状態を把握することで早期発見に努め、万が一発生が疑われる場合は、感染拡大防止のために家畜保健衛生所または、管理獣医師に速やかに連絡してください。

神奈川県県央家畜保健衛生所

本所 〒243-0417 海老名市本郷3658
電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124
東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076
電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

